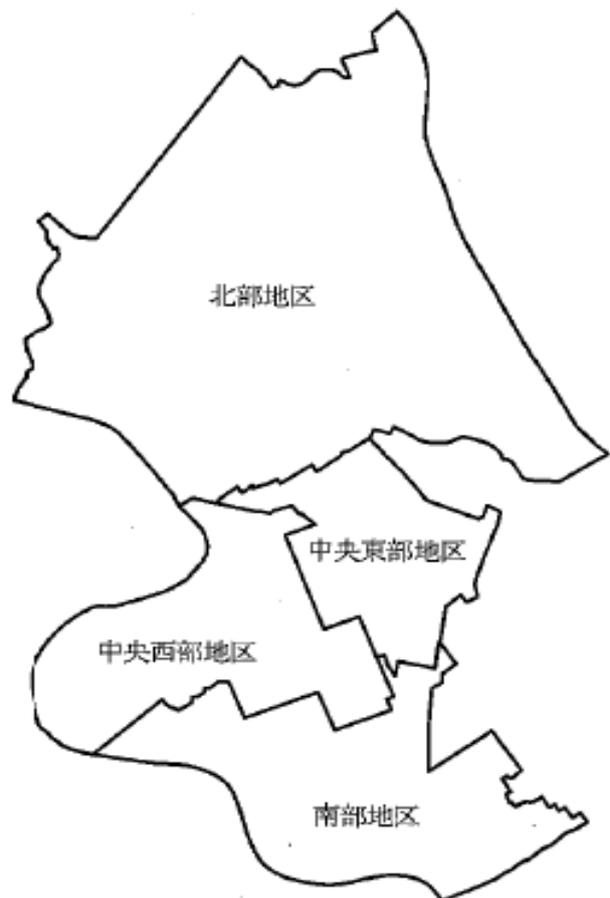


地区別計画

今後、急速に変化する社会潮流、特に少子・高齢社会の到来が予測されるなか、町民がまちづくりに関心を持てるよう、町民と行政が情報共有を図りながら協働によるまちづくりを展開していく必要があります。

町内の自然、文化、歴史などのさまざまな資源や特性を活かし、個性豊かで活気あるまちづくりを進めるため、町内を*市街化区域と*市街化調整区域の別や、大字区分などをもとに、4つの地区に分け、町民とともにきめ細かいまちづくりを進めていきます。

- 北部地区 大字築比地の全部
大字金杉の全部
大字魚沼の全部
大字大川戸のほぼ全部
- 中央西部地区 田島東を除く
市街化区域全部
- 中央東部地区 田島東の全部
大字松伏の一部
大字田島の一部
- 南部地区 大字松伏の一部
大字上赤岩の全部
大字下赤岩の全部



【地区別計画の内容について】

地区別計画では、地区ごとに「地区の概要」と「人口動向」を整理し、今後のまちづくりに向けた「まちづくりの施策」を示しています。

北部地区

地区の概要

北部地区は、全域が市街化調整区域で、東部の江戸川沿いの集落、西部の大落古利根川から県道春日部松伏線・野田岩槻線にかけての集落、中央部の中川沿いの豊かな水田地帯で構成されています。

集落のなかには、開発された既存住宅団地が点在しているほか、中央部の水田地帯は、ほぼ全域が農業振興地域の農用地区域に指定されています。

北東部の台地には、豊かな自然林・屋敷林が広がっており、特徴的な景観を形成しています。

また、県や町に指定されている史跡や遺跡が多く存在しており、歴史を感じさせる地区でもあります。その反面、狭い生活道路の改善、排水路整備、公共交通網の充実を図るなど、日常生活の利便性を向上するための生活基盤の整備が求められています。また、農業従事者の高齢化や後継者不足が課題としてあげられることから、農業振興を図るための取組みが求められています。

人口動向

区分	平成20年4月1日			平成25年4月1日	
	北部地区	町全体		北部地区	町全体
地区人口	6,874人 (町全体の21.8%)	31,570人	514人 減	6,360人 (町全体の20.6%)	30,944人
年少人口	828人 (地区人口の12.0%)	4,949人 (町全体の15.7%)	228人 減	600人 (地区人口の9.4%)	4,325人 (町全体の14.0%)
生産年齢人口	4,604人 (地区人口の67.0%)	21,370人 (町全体の67.7%)	583人 減	4,021人 (地区人口の63.2%)	19,954人 (町全体の64.5%)
老年人口	1,442人 (地区人口の21.0%)	5,251人 (町全体の16.6%)	297人 増	1,739人 (地区人口の27.3%)	6,665人 (町全体の21.5%)

平成25年4月1日現在のこの地区の人口は6,360人で、町全体の人口の20.6%を占めています。

0歳～14歳までの年少人口は600人で、北部地区人口の9.4%を占めています。65歳以上の老年人口は1,739人で、北部地区人口の27.3%を占めています。

年少人口と老齢人口の割合を町全体の割合と比較すると、少子高齢化の傾向が見られ、平成20年4月1日の人口構成と比較しても、その傾向は強まっています。

【まちづくりの施策】

★町民主体の地域コミュニティ豊かなまちづくり

地域住民の交流を活発にし、コミュニティの育成を図ります。

- コミュニティ活動の活性化のための支援
- コミュニティ活動施設の維持管理のための支援

★活気あふれるにぎわいのまちづくり

老人福祉センターを中心に周辺地域を北部地域の拠点に位置づけ、多くの町民が集える憩いの場としての機能を充実させ、地域の活性化を図ります。

また、企業立地を促進し、税収の確保と雇用の促進を図るとともに、農業生産基盤の整備や新たな特産品の開発、※地産地消の推進、また農業の担い手の育成、6次産業化など、さまざまな取組みにより農業の活性化を図ります。

- 老人福祉センター機能の充実
- 大川戸地区における新たな工業団地の整備
- 地産地消や特産品の開発、多品目生産の振興など※都市型農業の推進
- 中川沿川の優良農地の保全と、農業の担い手への土地利用集積の促進
- 首都圏への農作物の販売流通ルートの確保
- 河川の水質保全や営農環境の向上のための排水路の整備推進

★利便性の高い快適空間のまちづくり

まつぶし緑の丘公園や河川敷とあわせて水と緑のネットワークを形成し、町民憩いの空間として活用します。

また、生活道路や排水路などの生活基盤の整備を一体的に進めます。

- 地域住民の自主的なまちづくりの促進
- 狭あいな生活道路の改善
- 幹線道路の整備にあわせたバス交通の利便性の向上
- (都)東埼玉道路の建設促進
- せんげん台駅方面や野田市方面への新たな道路整備の検討
- 生活雑排水対策としての※合併処理浄化槽の普及促進と排水路の整備推進
- ※農業集落排水処理施設の適正な維持管理
- 豊かな自然環境や景観、史跡、遺跡の保全・活用

★安全・安心な暮らしのできるまちづくり

地域のなかで安心して暮らせる自然と調和した良好な環境づくりを図ります。

- 河川空間や生活環境に対する保全意識の向上
- 河川環境や緑豊かな自然環境などの保全
- 不法投棄や埋立ての監視、意識啓発などを通じた良好な環境の保全と創造

中央西部地区

地区の概要

中央西部地区は、全域が市街化区域で宅地化が進んでいます。県道越谷野田線や県道葛飾吉川松伏線が通り、バス交通の利便性も高い地域です。また、町役場、郵便局、中央公民館などの公共施設や医療機関、商店などのサービス施設が集まっており、町の中心地域となっています。

さらに、松伏総合公園・松伏記念公園をはじめとした都市公園も多くあり、水と緑が共存する豊かな居住空間でもあります。

この地区の課題は、地域住民間のコミュニケーション、既存住宅地の狭あい道路対策、既存公共施設の適切な維持管理による長寿命化などがあげられます。

人口動向

区分	平成20年4月1日			平成25年4月1日	
	中央西部地区	町全体		中央西部地区	町全体
地区人口	20,885人 (町全体の66.1%)	31,570人	24人 増	20,909人 (町全体の67.6%)	30,944人
年少人口	3,684人 (地区人口の17.6%)	4,949人 (町全体の15.7%)	369人 減	3,315人 (地区人口の15.9%)	4,325人 (町全体の14.0%)
生産年齢人口	14,165人 (地区人口の67.8%)	21,370人 (町全体の67.7%)	574人 減	13,591人 (地区人口の65.0%)	19,954人 (町全体の64.5%)
老年人口	3,036人 (地区人口の14.5%)	5,251人 (町全体の16.6%)	967人 増	4,003人 (地区人口の19.1%)	6,665人 (町全体の21.5%)

平成25年4月1日現在のこの地区の人口は20,909人で、町全体の人口の67.6%を占めています。

0歳～14歳までの年少人口は3,315人で、中央西部地区人口の15.9%を占めています。65歳以上の老年人口は4,003人で、中央西部地区人口の19.1%を占めています。

平成20年4月1日の人口と比較して、若干人口増加となっていますが、年少人口の減少と、老年人口の増加傾向が見られます。

【まちづくりの施策】

★町民主体の地域コミュニティ豊かなまちづくり

地域住民の交流を活発にし、コミュニティの育成を図ります。

- コミュニティ活動の活性化のための支援
- コミュニティ活動施設の維持管理のための支援
- 中央公民館など既存施設の維持管理

★利便性の高い快適空間のまちづくり

良好な住環境を形成する観点から、景観に配慮した生活空間づくりを進めます。

また、この地区の大動脈となる※都市計画道路の未整備箇所の整備を推進します。

- 地域住民の自主的なまちづくりの促進
- (都)浦和野田線の未整備箇所の建設促進
- (都)八反河原町線、(都)河原町深町線の整備推進
- 松伏総合公園・松伏記念公園など整備済み公園の維持管理と子どもの遊び場の充実
- 上河原緑地（通称：かがり火公園）の整備推進
- 既存水路の維持・修繕改修の推進
- 公共下水道の適正な維持管理、接続率の向上
- 河川環境や自然環境の保全
- 既存道路や水路、公共下水道の維持・改修

★安全・安心な暮らしのできるまちづくり

自然と調和した、快適で利便性に優れた良好な居住の整備や保全を図ります。

- 河川空間や生活環境に対する保全意識の向上
- 河川環境や緑豊かな自然環境など多様な環境の保全

中央東部地区

地区の概要

中央東部地区は、農村的要素と都市的要素が調和した地域です。*東埼玉テクノポリスのある田島東を除く全域が市街化調整区域となっています。県道中井松伏線に沿って既存の集落が形成され、県道越谷野田線の両側に住宅や商店、さらに、第一保育所やかるがもセンター、学校給食センターなどの公共施設があります。また、地区の東側を南北に流れる中川に沿っては、豊かな水田地帯が広がる、中川河川敷の景観など良好な自然環境が残っています。

今後、地区の中央を南北に横断する（都）東埼玉道路の整備が進められており、東西を横断する（都）浦和野田線の整備延長と併せ、その周辺地域については、*職住近接をめざした産業集積と、*高速鉄道東京8号線を想定した町の核づくりとしての土地利用が求められています。

人口動向

区分	平成20年4月1日			平成25年4月1日	
	中央東部地区	町全体		中央東部地区	町全体
地区人口	1,547人 (町全体の5.0%)	31,570人	70人 減	1,477人 (町全体の4.8%)	30,944人
年少人口	176人 (地区人口の11.4%)	4,949人 (町全体の15.7%)	5人 増	181人 (地区人口の12.3%)	4,325人 (町全体の14.0%)
生産年齢人口	1,060人 (地区人口の68.5%)	21,370人 (町全体の67.7%)	124人 減	936人 (地区人口の63.4%)	19,954人 (町全体の64.5%)
老年人口	311人 (地区人口の20.1%)	5,251人 (町全体の16.6%)	49人 増	360人 (地区人口の24.4%)	6,665人 (町全体の21.5%)

平成25年4月1日現在のこの地区の人口は1,477人で、町全体の人口の4.8%を占めています。

0歳～14歳までの年少人口は181人で、中央東部地区人口の12.3%を占めています。65歳以上の老年人口は360人で、中央東部地区人口の24.4%を占めています。

平成20年4月1日の人口と比較すると、年少人口は若干増加していますが、地区人口は減少し、高齢化率は増加しています。

【まちづくりの施策】

★町民主体の地域コミュニティ豊かなまちづくり

地域住民の交流を活発にし、コミュニティの育成を図ります。

- コミュニティ活動の活性化のための支援
- コミュニティ活動施設の維持管理のための支援

★活気あふれるにぎわいのまちづくり

(都)東埼玉道路と(都)浦和野田線が結節する*松伏インターチェンジ周辺は、職住近接をめざした新たな人口増加の受け皿となる新たな雇用の場を創出する産業集積と周辺の住環境に配慮した*沿道サービス施設の立地誘導を図ります。

- 高速鉄道東京8号線松伏新駅周辺エリアの開発の研究
- (都)東埼玉道路、松伏インターチェンジ周辺エリアの開発の研究
- 営農環境の向上のための排水路の整備推進

★利便性の高い快適空間のまちづくり

良好な住環境を形成する観点から、景観に配慮した生活空間づくりを進めます。

- 地域住民の自主的なまちづくりの促進
- 高速鉄道東京8号線の建設促進
- (都)浦和野田線の未整備箇所の建設促進
- (都)東埼玉道路の建設促進
- 吉川方面への新たな道路整備の検討
- 生活雑排水対策としての合併処理浄化槽の普及促進と排水路の整備推進
- 既設水路の維持・補修改善の推進
- 河川環境や自然環境の保全
- 既存住宅地の生活基盤の整備

★安全・安心な暮らしのできるまちづくり

自然と調和した、快適で利便性に優れた良好な居住の整備や保全を図ります。

- 河川空間や生活環境に対する保全意識の向上
- 河川環境や緑豊かな自然環境など多様な環境の保全
- 不法投棄や埋立ての監視、意識啓発などを通じた良好な環境の保全と創造

南部地区

地区の概要

南部地区は、全域が市街化調整区域で、県道葛飾吉川松伏線沿いに集落が形成されています。(都)松伏越谷線やふれあい橋の開通により、越谷方面への交通アクセスが改善され、新たなバス路線も整備されました。

また、大落古利根川、中川という二つの一級河川が流れ、これらを中心に集落の東西に広がる農地からなる、美しい田園景観が形成されています。西側の畑作地帯、東側の水田地帯とも、農業振興地域の農用地区域に指定されています。

この地区も北部地区と同様に、狭い生活道路の改善、排水路整備、公共交通網の充実を図るなど、日常生活の利便性を向上するための生活基盤の整備が求められています。また、農業従事者の高齢化や後継者不足が課題としてあげられることから、農業振興を図るための取り組みが求められています。

人口動向

区分	平成20年4月1日			平成25年4月1日	
	南部地区	町全体		南部地区	町全体
地区人口	2,264人 (町全体の7.2%)	31,570人	66人 減	2,198人 (町全体の7.1%)	30,944人
年少人口	261人 (地区人口の11.5%)	4,949人 (町全体の15.7%)	32人 減	229人 (地区人口の10.4%)	4,325人 (町全体の14.0%)
生産年齢人口	1,541人 (地区人口の68.1%)	21,370人 (町全体の67.7%)	135人 減	1,406人 (地区人口の64.0%)	19,954人 (町全体の64.5%)
老年人口	462人 (地区人口の20.4%)	5,251人 (町全体の16.6%)	101人 増	563人 (地区人口の25.6%)	6,665人 (町全体の21.5%)

平成25年4月1日現在のこの地区の人口は2,198人で、町全体の人口の7.1%を占めています。

0歳～14歳までの年少人口は229人で、南部地区人口の10.4%を占めています。65歳以上の老年人口は563人で、南部地区人口の25.6%を占めています。

平成20年4月1日現在の人口と比較すると、年少人口の割合の減少と老年人口の割合の増加が強い傾向にあります。

【まちづくりの施策】

★町民主体の地域コミュニティ豊かなまちづくり

地域住民の交流を活発にし、コミュニティの育成を図ります。

- コミュニティ活動の活性化のための支援
- コミュニティ活動施設の維持管理のための支援
- 赤岩地区公民館など、既存施設の維持管理

★活気あふれるにぎわいのまちづくり

農業生産基盤の整備や新たな特産品の開発、地産地消の推進、また農業の担い手の育成、6次産業化など、さまざまな取組みにより農業の活性化を図ります。

- 河川の水質保全や営農環境の向上のための排水路の整備推進
- 中川沿川の優良農地の保全と、農業の担い手への土地利用集積の促進
- 地産地消、特産品の開発、多品目生産の振興など都市型農業の推進
- 首都圏への農作物の販売流通ルートの確保

★利便性の高い快適空間のまちづくり

生活の利便性の改善や優良農地の環境保全、農業生産基盤の整備などを図ります。

- 地域住民の自主的なまちづくりの促進
- (都)河原町深町線の整備推進
- (都)東埼玉道路の建設促進
- 狭あいな生活道路の改善
- 生活雑排水対策としての合併処理浄化槽の普及促進と排水路の整備推進
- 終バスの時間延長や増便など一層のバス交通の充実の促進
- 吉川方面への新たな道路整備の検討

★安全・安心な暮らしのできるまちづくり

地域のなかで安心して暮らせる自然と調和した良好な環境づくりを図ります。

- 河川空間や生活環境に対する保全意識の向上
- 河川環境や緑豊かな自然環境など多様な環境の保全
- 不法投棄や埋立ての監視、意識啓発などを通じた良好な環境の保全と創造

沿道サービス：道路に沿って店舗が立ち並び、そのエリアでさまざまなサービスが利用できること。

合併処理浄化槽：し尿と生活雑排水(台所や風呂などからの排水)をあわせて処理する浄化槽のこと。それに対して、し尿のみを処理するものは単独処理浄化槽という。

高速鉄道東京8号線：東京都内の豊洲から住吉、押上、亀有から千葉県野田市に整備着手することが望ましい」と答申された路線のこと。本町では、町内への駅の設置を含めた路線の誘致活動を実施している。

市街化区域：都市計画法により定められた区分で、市街化区域はすでに市街地を形成している区域及びおおむね10年以内に優先的かつ計画的に市街化を図るべき区域をいう。

市街化調整区域：都市計画法により定められた区分で、市街化調整区域は、市街化を抑制すべき区域をいう。

職住近接：職場と家庭生活を営む住居とが近接していること。

地産地消：地域で採れた農産物をその地域内で消費すること。

都市型農業：食糧供給機能だけでなく、都市に求められる緑の供給、都市空間、環境保全、防災などの諸機能を果たす農業。

都市計画道路：都市計画法の規定により、円滑な都市活動を確保し良好な都市環境を保持するために「都市計画決定された道路」のこと。ただし都市計画決定は、実際の事業着手を意味するものではない。この冊子では、都市計画道路の路線名に「(都)」を付記している。町内を通る都市計画道路は次の6路線。

(都)東埼玉道路 …八潮市の東京外郭環状道路と、春日部市の国道16号をつなぐ自動車専用道路。町内を南北に縦断する。

(都)浦和野田線 …さいたま市の(都)新浦和越谷線から、さいたま市、越谷市を通り、町内を東西に横断し、野田橋へ接続する路線。

(都)松伏越谷線 …一部が県道春日部松伏線と重なり、ゆめみ野地区、ふれあい橋を通り、(都)越谷駅前線に接続する路線。

(都)八反河原町線…一部が県道越谷野田線と重なり、田中地区を通り、(都)浦和野田線へ接続する路線。

(都)河原町深町線…(都)浦和野田線と(都)八反河原町線の交差部から、ゆめみ野地区を通り、(都)浦和野田線へ接続する路線。

(都)外前野線 …(都)河原町深町線から(都)浦和野田線へ接続する路線。

農業集落排水：農業集落におけるし尿、生活雑排水などの汚水等を処理する施設の整備により、農業用排水の水質の汚濁を防止し、農村地域の健全な水循環に資するとともに、農村の基礎的な生活環境の向上を図るもの。

東埼玉テクノポリス：本町と吉川市にまたがる工業団地の名称。吉川・松伏工業団地から改称された。

松伏インターチェンジ：本町を南北に縦断する予定の(都)東埼玉道路と東西に横断する予定の(都)浦和野田線の結節点をこのように通称している。

6次産業化：農林水産物の生産(1次産業)から加工(2次産業)、流通・販売(3次産業)まで「1×2×3」をまとめて手がける取組み。